

---

# バカと居眠りとAクラス

nature

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカと居眠りとAクラス

### 【Nコード】

N7700Y

### 【作者名】

n a t u r e

### 【あらすじ】

学園居眠り時間歴代最高記録を1年で塗り替えた男「緑野 魁人」。

その男がなんで学年次席？！

幼馴染の佐藤美穂、親友の明久、雄二らと繰り広げる学園ラブコメデー！

どうぞお楽しみ下さい！……楽しませられるかなあww

Aクラス中心でやってくつもりなのでFクラスはあまりだせないかも…。

初投稿なので変かもしれませんがよろしくです！  
作者は受験生なので更新は不定期です。  
加えて作者の自己満小説になる可能性があります。  
嫌だ！って人はお戻り下さい。。

## ぶろろーぐ。（前書き）

はじめまして。 natureです。

初投稿になります。 どうぞよろしくお願いします。

ぶろろーぐ。

春。      ここ文月学園ではクラス発表が行われていた。

「ふわぁゝ……。眠いなぁ……。」

万年居眠り男「緑野 魁人」は大欠伸をしながら学園内を歩いていく。

「……先生を無視してどこへ行く。自分のクラスが知りたくないのか？」

生徒から「鉄人」と呼ばれ恐れられる補修教師、西村が血管を浮き上がらせながら言う。

「……おはようつす。」

「明らかに嫌な顔をするな。ほら、振り分け試験の結果だ。」

魁人は封筒を受け取り、空けようとする。

「実は、先生はお前を１年間見てきて「こいつは吉井と並ぶＦクラス候補なんじゃないか？」

と思っていた。授業は居眠りテストも真面目に受けてなかったからな。」

やっと封筒を開け終わり中身を見る。

「緑野 魁人 Aクラス 次席」

「どうやら先生が間違っていたらしい。すまなかったな。」

「いや、悪いのは俺の生活態度ですから。謝んなくていいですよ。じゃ、俺行きますね。」

「ああ。出来れば居眠りはもうやめろよ」「無理っす。」「…即答か。」

「じゃ、残り頑張ってください。」

そう言って魁人は昇降口へ向かった。

これから魁人のAクラスでの学園生活が始まる……。

ぶろろーぐ。(後書き)

記入してありますが、更新は不定期です。

ご了承下さい。

## 主人公紹介！

名前 緑野 魁人（みどりの かいと）

性別 男

身長 175 cm

体重 62 kg

見た目 顔は中性的。ってかどっちかという女子。

だがなぜか女子に見られることはない。

髪は愛子を少し長くした感じの茶髪。

体型はちょっとやせてるかな？ぐらい。

性格 基本優しい。でも眠気によって機嫌が悪くなっていく。

眠いときに誰かに寝るのを邪魔されるとブチ切れる。

友達や弱い人をいじめる奴は大嫌い。そのときもブチ切れる。

また、かなり面倒くさがり。でもやる時はやる。

やっていいことと悪いことの区別をすっかりつけている。

得意教科 数学（真面目にやれば1年の時毎回余裕で1位をとれたぐらい）

苦手教科 英語（勉強する意味がないと感じているから）

召喚獣 そのまま小さくした感じ。

服は剣道の胴着、袴。

武器は竹刀。特別な効果があり、



基本どこを打ってもダメージは低いが、  
面、小手、胴、突きの位置（頭、両手、腹、喉）を的確に  
打つと

相手の元々の点数の半分のダメージを与える。  
つまり、2回の確に打つたら相手は補習行き。

腕輪 もう決めてありますが、秘密です。

A対Fが終わった辺りで更新するつもりです。

その他 中学まで剣道をやっていた。同じく中学で剣道を

やっていた（という設定）の須川と知り合い。

何回か試合をしたこともある。

しかし、足に重大な怪我をしたため、

今は文月の剣道部のコーチを氣が向いたらしている。

美穂とは保育園からの付き合い。

明久は小学校、雄二は中学校で出会った。

雄二と初めて会ったときに…？

自分以外への恋心には敏感だが、自分がもてると思ってい  
ないため、

自分に関してはかなり鈍感。

1人暮らしのため家事は大体できる。

どうせ食うならうまいものが食べたい、という理由で

料理は異常にうまい。

居眠り時間学園歴代最長記録をもっているが、頻繁に更新  
されるので、

正確な記録はわからない。

## 第1話 設備で重視すること。

「そういえば、あいつはこのクラスになったかな…」

魁人はAクラスへあるきながらそう呟いた。

「おつ、ここか…でかいな。」

入ったAクラスには教育施設とは呼べないくらいの設備が揃っていた。

リクライニングシート、個人エアコン、冷蔵庫、パソコンetc…。

「あつ、魁人くん！」

誰かが魁人に気づいたらしく、走って駆け寄ってきた。

「ん？お、美穂か。お前もAクラスに入れたんだな。」

走ってきたのは先ほどの「あいつ」こと幼馴染の「佐藤 美穂」だった。

「はい。魁人くんと同じクラスになりたくて、頑張って勉強しましたから…。」

「へえ、そいつは殊勝なこったな。ま、1年よろしくな。」

魁人は前半部分の意味を理解していないようでそう答えると、

「はい…。そういえば、この教室って大きいですね…。」

少ししよげている美穂は教室を見渡しつつ、こう言った。

「ああ、そうだな。」

普通の人ならばここで「勉強しやすそう」とか「快適そうだな」とか言いそうだが、それに対して魁人は

「寝やすそうだ。」

「…教室に関しての感想がそれですか…。」

学園居眠り時間歴代最高記録男はそう答えた。

そ か れ ら 少 し 経 つ て

「皆さん、席について下さい。」

クラス担当の高橋が教室に入り、そう告げる。

「ん？時間か。」

そうは言っても席に座って話していたので動くことは無い。

ちなみに魁人は偶然席が近かった美穂と話していた。

「そうみたいです…。」

「では、自己紹介をしようと思います。廊下側の人から願います。」

「あつちからか…。」

ちなみに魁人の席は窓側から2番目なので、結構後半の方になる。

「…自分の番まで寝てるから、順番が来たら起こしてくれるか？」

「はあ…、仕方ないですね。」

魁人は美穂にそう告げ、3秒で寝る。

「…人くん。魁人くん。次ですよ。」

「…ん？そうか。ありがとな。」

魁人は寝ぼけ眼をこすりながら笑顔でそう言う。

「いえ…／＼／。」

美穂は少し顔を赤くし、前を向く。

美穂の席は魁人の右隣である。

「さて…、俺の番か。まあ、対して特別なこともないか…。」

前の人が終わわり、魁人は立ち上がる。

「俺は緑野 魁人。好きなことは寝ることだな。1年間よろしく。」

魁人はそう皆に告げるとすぐ席に座る。

「俺の番も終わったし、また寝るか…。」

そうしてまた魁人は眠りについた。

「…何であいつが…？」

クラスメート達がそう呟き始めた頃にはもう寝息を立てていた。

## 第1話 設備で重視すること。（後書き）

いきなりコメントがきて驚きました…。

餓鬼さん、本当にありがとうございます！

感想など書いて頂けると作者は気が狂う程喜びます。

今回見て下さった皆様、出来れば次回も読んで頂けるとありがたいです。

感想、アドバイスなどお待ちしています。

では、読んでいただき、ありがとうございました！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7700y/>

---

バカと居眠りとAクラス

2011年11月23日21時57分発行